新装版

願望物質化の超法則②

今していることすべてが現実になる

Attaining Your Desires

ジュヌビエーブ・ベーレン
林陽［訳］

あなたが
外に求める奇跡を
内側に実現させる
シークレット
know-how!

諸　言

あなたの願望を満たし覚醒へと導く

――究極不変の〝錬金術〟をマスターしましょう！

「よいものを望み、夢見てきたすべてが現実になる。似たものではなくそのものが」

――ブラウニング

「今まであったことが現実になる。今していることが現実になる」

――集会の書

魂の奥底から思想を生み出したどの時代の聖者も「人は思う通りのものになる」という教えを変わらず残しました。この法則が不変であることはいつの時代

にも証明されています。

よいものだけを結実させるにはどう考えればよいでしょう。だらけた人生を高価なものに変質させる秘密はどこに。それをこの本でお伝えするのが私の目的です。

私の心の鏡に映った尊敬すべき師トマス・トロワード判事の心の錬金術を具体化しましょう。表現形式として、もっとも偉大な思弁哲学者プラトンでおなじみの対話篇を採用しました。

超人の精神を長年研究してきて、微妙なニュアンスや、魂に響く含意（がんい）を伝えるには、対話形式が一番であると確信します。読者が弟子の立場になり、師が私に答えてくれたように答えてくれると思ってください。興味がますます募（つの）り、各レッスンが楽しくなってくると思います。

Genevieve Behrend

ジュヌビエーブ・ベーレン

訳者解説

どんな困難も乗り越える秘訣

――時代は今こそ、この本を求めている

本書は『ザ・シークレット』において「達人（expert）」の一人に数えられているジュヌビエーブ・ベーレンの第二作で、彼女の師であるトマス・トロワード判事が世に問うた「引き寄せの法則」と「原因と結果の法則」を対話形式でわかりやすく説いたものです。

『ザ・シークレット』で一躍人口に膾炙（かいしゃ）した「引き寄せの法則」ですが、その大元をたどると19～20世紀の名判事トマス・トロワードに行き着きます。

ベーレンは愛する夫と死別した悲しみの中で、生きる意味を探す旅に出て、その道の有名人たちに出会います。

最初に紹介されたのがクリスチャン・サイエンスの創始者メアリ・ベーカー・

エディー（１８２１～１９１０）でしたが、物質を否定する思想についていけず、その信仰を捨てました。

次に紹介された人物が、のちの彼女の人生を隅々（すみずみ）まで見通して、大いなる勇気を奮（ふる）い起してくれました。

それがバハイ教の大指導者アブドル・バハ（１８４４～１９２１）でした。そのときのことをベーレンは、次のように書いています。

「心を満たすのをあきらめ、享楽の人生に戻ることを考えたときに、友人が偉大な賢者で指導者のアブドル・バハを紹介してくれました。

この驚くべき男と対談してから、私の心を満たすための探求が変化していきました。

彼は『あなたは真理を求めて世界を旅し、それを見つけて世界に発表する』と言ったのです。

そのときは、この偉大な賢者の言葉が実現する可能性は皆無（かいむ）に思えました。し

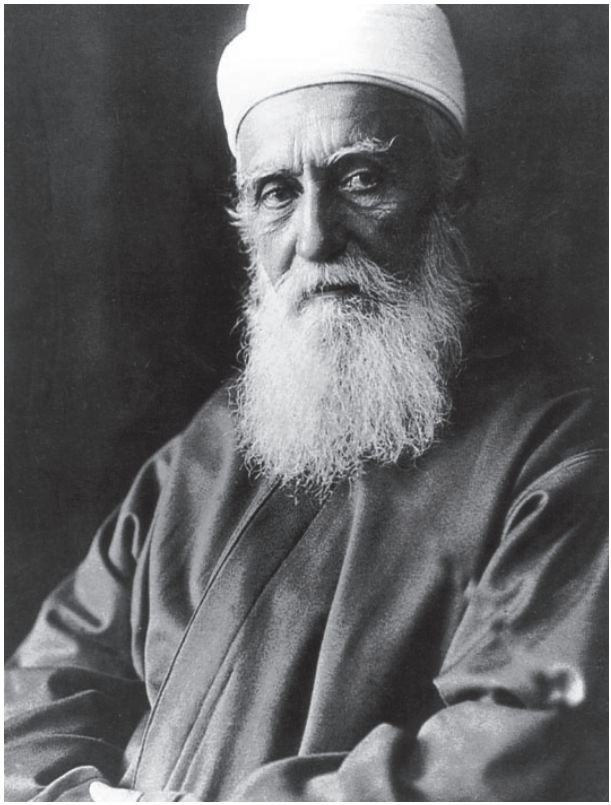
かし、私は彼の言葉に勇気づけられ、少なくとも今までの探求が誤っていたことを知りました。

以後、心の満足を内に探すようになりました。そこにおいて真理を見出すとバハが言ったからです。

それが彼との対談で唯一覚えている最大の言葉です」

アブドル・バハは世界布教活動を展開してニューヨークに来たばかりでした。１９１２年のことです。バハは数十年先まで個人や国家の未来を見通す能力で知られ、ベーレンに関しても言葉通りになりました。

終生の師トマス・トロワード（１８４７～１９１６）に出会ったのはそれからです。トロワードの名著『エジンバラ講義』（序章を参照）に魅了された彼女は、この人に会って弟子になりたいとの一念でその本に書かれている宇宙の法則を使い始めます。



アブドル・バハ（1844～1921）。バハイ教の大指導者。ジュヌビエーブ・ベーレンに内なる探求への道を示した……

その中心的道具（ビジュアライゼーション）を使いこなして、渡航費と滞在費（億のお金）を短期間にいかにして捻出（ねんしゅつ）したかが前作（『新装版　願望物質化の『超』法則　夢見てきたことすべてが現実になる』）に詳しく書かれています。

心のスクリーンに描いた通りに船に乗り、トロワードに会うまでこぎつけます。

トロワードは晩年に近づき弟子を取らぬ主義でしたが、彼女の情熱に根負けして、ある試験を与えてからついに門下生になる許可を与えます。

本書はイギリス滞在中に師との間に交わされた対話を再現しながら、精神と物質（原因と結果）の法則を学び、どんな困難も克服して望みを物質化する秘密を解き明かすものです。

愛弟子は帰国後すぐに師の教えを広める仕事を開始します。

各都市で精力的に講演活動を繰り広げ、１９１５年にニューヨークにスクール・オブ・ビルダーズと呼ばれるニューソート学校を設立、１９２５年まで経営しました。

次に、ロサンゼルスに学校を設立して、ラジオ放送で布教するようになりまし

た。

その後世界は大恐慌（１９２９年）、世界大戦、原爆投下の動乱期を迎えています。彼女の仕事の速さを振り返ると、先の時代を予見して、どんな困難をも乗り越える秘訣を早く多くの人に伝えたいと願ったかのようにも感じられます。「歴史は繰り返す」といいます。現代に通じる何かがここにあるのではないでしょうか。

アブドル・バハは、１９１２年に、パリ滞在中の荒川巳次（あらかわみのじ）スペイン駐在特命全権公使（１８５７〜１９４９）を訪れ、日本の重要性、人類への奉仕、戦争廃絶に向けた活動、宗教と科学の関係、今後の世界の動きについて話し、日本と世界の未来にかかわる重要なメッセージを伝えました。

「科学的発見は物質的に文明を進化させてきた。

驚くべき力を内在しているが、幸いにも未だ人間に発見されていない、精神文

明が人間の心を支配するときまでは、この力が科学によって発見されないよう、敬愛する神に嘆願しよう。

低俗な性質を持つ人間の手に入れば、この力は全地球を破壊しかねない」

「日本においては、神の宣言は恐るべき爆発のように聞こえるであろう。そのため、用意のできた者たちは真理の太陽の光で高揚され、照らされるであろう」

『燎原の火――日本』54ページより。

これは原子力の発見[*1]と核開発と原爆投下を予見した言葉と受け取られていますが、今となってみれば原子炉爆発事故も含まれるかもしれません。

彼の言葉は重要です。精神文明対物質文明、あるいはメンタル・サイエンス対フィジカル・サイエンスの相克（そうこく）が示されているからです。

「人の精神活動がその形に物質的結果を作り出す」というトロワードの教えに照らすならば、人類はその精神的創造力をどこかで大きく誤用したのであり、私た

ちは今それにバランスをとる必要に迫られているのです。

この本が精神力を正しく使い、困難な今の時代を乗り越える助けになることを切に願います。

訳注＊1　第1メソッドの冒頭でトロワードも類似の話をしています。

林　陽

目次

1 諸言　あなたの願望を満たし覚醒へと導く――究極不変の〝錬金術〟をマスターしましょう！

4 訳者解説　どんな困難も乗り越える秘訣――時代は今こそ、この本を求めている　林 陽

序章

聖哲の教え〝宇宙を貫く絶対法則〟――人はなぜ思った通りの人に〝なる〟のか

23 ◉聖者トマス・トロワードのことをまずお話ししましょう

25 ◉トロワードの前半生――インド、イギリスで育まれた特別な才能

26 ◉不朽の名著、宇宙の法則を体系化した『エジンバラ講義』誕生まで

28 ◉トロワードの人物像――自然で素朴な物腰、穏やかな人柄

30 ◉哲人ソクラテスとの共通点――直観力と良識を人生論の中心に置く

32 ◉解脱者トロワードの最期は、自ら望んだ通りの幕引きだった

Part1

願望物質化への最重要レッスン&エクササイズ36 聖者(トロワード)と弟子(ベーレン)の「超」対話篇

第1メソッド

願望実現の仕組み／宇宙の真理を知る

Lesson 1
すべての空間に充満している〝命〟そして〝知〟／命の法則(振動の法則)を使えば創造力を特殊な方向に向けることが可能 39

Lesson 2
宇宙における人の位置づけを知る／人は宇宙の最高生命体の一部であり最高知の表現者 42

Lesson 3
人とサルの違いは何か／人の〝知〟は問題解決のカギを宇宙全体から引き寄せる 44

Lesson 4
生命力を支配する秘密／不滅の〝知〟を行動に移せばどんな問題も解決できる 46

Lesson 5
48 生命の道程を照らす方法／信じて粘り強く努力すれば心の中で〝知〟が教えてくれる
Lesson 6
52 原因はすべて自分にある／願望実現も否定的結果も同じ力が生み出している
Lesson 7
54 成功時と失敗時の思考と感覚を分析する／あなたの心が知的生命原理、命の法則に一致すれば真理になる
Lesson 8
56 願望とは、宇宙の愛の個性的表現／心から願うことをいかにポジティブな態度で貫くか
60 Exercise 1　心配、恐れ、落胆を追い出す復唱エクササイズ

第2メソッド
困難を打ち破るエネルギーを呼び覚ます

Lesson 9
65 人は創造的な命の霊的乗り物・媒体／望む人生の根本原因にもなるスピリットのことをまず理解する
Lesson 10
66 あなたが外に求める奇跡は内にある／環境を支配できるようになるためのプロセス

Lesson 11
限界を突破して自由を楽しむ法／習慣的思考が環境の中で物質化してゆくことを知る 68
Lesson 12
困難を乗り越える道筋／それは宇宙の心との依存関係を意識して高めること 71
Lesson 13
原因と結果――創造の過程を正しくインプット／思考が一新されると、自然界にないものを作り出す発想がやって来る 74
Lesson 14
無限の心への自覚、散歩、瞑想、視覚化……／宇宙の知が壮大なひらめきを与える瞬間はこうして起きる 78
Lesson 15
自分の思考を確信に変えよ／あなたの知に働きかける宇宙の形成力をいかに引き出すか 81
Lesson 16
宇宙の神聖な力を物質化する中心はあなた／願望の映像を心眼に保ちながら自在に呼び起こせるようにすること 83
Lesson 17
神は食材を提供してくれても料理はしない／宇宙からアイディアを引き出すために必要な調和の法則 86

Exercise 2　疑い、恐怖を除くための瞑想エクササイズ　88
Exercise 3　疑い、恐怖を消滅させる宣言（アファメーション）　90

第3メソッド

意志力を鍛え上げ心をコントロールする

Lesson 18
意志の力とその働き／そこに生命力を加えることがいかに大切か　97
Lesson 19
意志力こそが思考の安定剤／アイディアが形になるまで心の中に保たせる作用がある　100
Lesson 20
意志力を鍛え精神力を強化する／どんなポジション（状況）も気楽に保てるようになってゆく　102
Lesson 21
鍛え抜かれた意志は知性を助ける／宇宙創造の「生ける英知」へと繋がる重要な役割　104
Lesson 22
熱気と気力にあふれる意志力なくして願望の物質化はあり得ない　106

Lesson 23
108 意志を強化育成する方法／意志力をつけるのは、意志のみと知る
109 Exercise 4 意志力を開発するエクササイズ

第4メソッド

潜在意識を活性化させ使いこなす

Lesson 24
115 無限の供給源に繋がるために／潜在意識が願望物質化の手段を引き寄せる
Lesson 25
117 〝願望の精神〟に浸る／潜在意識に内在する創造力の制限をなくしてゆく
Lesson 26
120 マイホームを実現する／まず意識の中に〝精神的原型〟となる家を建てる
Lesson 27
124 内から守られている感覚に入る／心に描いた家を引き寄せるためにさらに必要なこと
Lesson 28
127 お金を増やすことと健康のさらなる増進／その原型＝原物質の出所を知る

Lesson 29
131 創造力は潜在意識の相互作用で働く／思考と感覚のすべてをあなたの中にある最善のものに直結させること
Lesson 30
135 包み込む保護の精神が生命本来の性質／人の潜在意識は絶対の器官であり大いなる全体の一部
Lesson 31
137 潜在意識と顕在意識の役割／潜在意識は「思いの形」を物質世界に現す唯一の創造力の源
Lesson 32
138 Q&A「聖者の金箔書簡」／願望物質化を実行する上で心に刻むこと

Part2
願望物質化への最重要プラクティス14
成功を妨げる敵を粉砕するための「超」技法篇

147 Practice 1 怒りを鎮めるプラクティス
149 Practice 2 不安を振り払うプラクティス
151 Practice 3 病を克服するプラクティス

Practice 4　落胆をシャットアウトするプラクティス　153
Practice 5　不満を解消するプラクティス　155
Practice 6　絶望を粉砕するプラクティス　157
Practice 7　羨望（うらやましく思う）を手放すプラクティス　159
Practice 8　恐怖を防御するプラクティス　161
Practice 9　優柔不断を断ち切るプラクティス　163
Practice 10　嫉妬を愛に転化させるプラクティス　165
Practice 11　自責の念に駆られたときのプラクティス　167
Practice 12　わがままをコントロールするプラクティス　169
Practice 13　神経質から解放されるためのプラクティス　172
Practice 14　みじめな気持ちを幸せな状況に変えるプラクティス　174
用語解説　177

装丁　坂川栄治＋鳴田小夜子（坂川事務所）
本文図版　浅田恵理子
本文仮名書体　蒼穹仮名（キャップス）

序章

聖哲の教え
〝宇宙を貫く絶対法則〟
——人はなぜ思った通りの人に〝なる〟のか

Troward-Philosopher And Sage

そのものになること。
〝もつ〟ではなく〝なる〟が生きる喜びなのです。

トロワードの教えは物質世界を否定せず、
逆に物質世界にあるどんなものも、
それぞれに対応する思考の結果なのだと教えるのです。

◉聖者トマス・トロワードのことをまずお話ししましょう

インド・パンジャブ州の地方判事であったトマス・トロワードは、近代の（いつの時代にも）まことに偉大なる霊魂の一人です。

ハーバード大学のウィリアム・ジェームズ博士は「かつてこれほどに優れた心理学的声明に出合ったことがない。澄んだ思想とスタイルの美しさよ。まさしく古典である」と彼の著作を評しました。

ボストン・イブニング・トランスクリプトは「この分野でお目にかかったもっとも深遠な思想家」と書評に書いています。

英国国教会のウィルバーフォース大執事は「あなたの生徒より感謝をこめて」の言葉でトロワードへの手紙を締めくくりました。

トロワードのファンから彼の身近な姿を詳しく知りたいという希望が多く寄せられていますので、私が師事した間に目にした日常生活の一こまをごらんに入れ

トマス・トロワード（1847－1916）。偉大な賢者、思想哲学者。キリスト教、インド思想、イスラム教、仏教を究め、啓蒙運動メンタル・サイエンスを創始。その柱となる宇宙の法則（原因と結果の法則、引き寄せの法則など）を体系化した

ましょう。

私は唯一の弟子として個人授業を受ける特権に浴しましたので、とても興味深いものになると思います。

◉トロワードの前半生――インド、イギリスで育まれた特別な才能

トマス・トロワードは、1847年に、英国領であったインドのセイロン（現・スリランカ）で、ユグノー[*1]の子孫であるイギリス人の両親のもとに生まれました。

子供の頃にイギリスに渡り、バーンステッド・グラマースクールに入学しますが、月並みな学校生活に適応できず不幸な歳月を送りました。

のちに、美しいジャージー島で勉学を続けますが、今度は心の奥まで魅了されて満足できました。ユグノーの血がフランスに近い大学環境に順応したのだと思われます。

十八歳の初めに才能を発揮し始め、ヘルホード大学から文学賞（金メダル）を授与されました。

卒業後、インド国家公務員試験をロンドンで受験、高得点で難関を突破、二十二歳で特許庁副長官としてインドに戻り、二十五年間勤務しました。

司法職に転向する試験のあいだに起きた出来事が、のちの人生に大きな影響を与えます。

訳注＊1　一六〜一七世紀フランスの改革派キリスト教徒の俗称。

◉不朽の名著、宇宙の法則を体系化した『エジンバラ講義』誕生まで

試験の最後がメタフィジックス（形而上学）で、当時のトロワードはこの分野を知りませんでした。何を読めばいいかわからず、時間もないので、早朝に瞑想して、浮かんできた思想で答案用紙を埋めました。

「いったい何を読んだのか」と試験官は驚いて聞きました。
「何も読んでいません。頭の中からわいてきたのです」
「君の頭脳は尋常ではない。私の目に狂いがなければ、いつか君の文章に再会するときがくる」

多忙な公務の中で、彼はカンバスと筆と絵の具で気分転換をしました。海をテーマにした絵を描くのが得意で、イギリスの美術展で賞を幾つか授与されています。

彼は古代インドとヘブライの古典の研究をこよなく愛しました。その深遠なテーマを研究する中で、心の平穏ばかりか、健康と幸せな物質的結果をもたらす哲学体系が幻のように開示されるのです。

インドでの多忙をきわめる公務から解かれて、イギリスに戻ると、数百ページに及ぶ著作が徐々に生まれてきました。

当時の彼はメンタル・サイエンス、クリスチャン・サイエンス、ニューソートなどのどんな思想の潮流も知りませんでした。

その思想は独自の瞑想と聖典研究から生まれたのです。

有名な『エジンバラ講義[*2]』は１９０４年に初版が出て、次の作品とともに、その真価は評価して余りあるとほとんどの人が口をそろえました。本は全世界に広がり、全米だけでも、５万部以上を売りました。

訳注＊2　『エジンバラでのメンタルサイエンス講義』。「引き寄せの法則」や「原因と結果の法則」などの理論・技法を解説している。

◉トロワードの人物像――自然で素朴な物腰、穏やかな人柄

トロワードはイギリス人というよりフランス人に近い風貌でした。

身長は１７０センチ弱、肌は色黒、小さな明るい瞳、大きな鼻と広い額。最初

に会ったときの彼は白髪の混じる口ひげを蓄えていました。

自然で素朴な物腰で、何事にも穏やかに応じ、短気で不親切な言葉を吐くのを見たことがありません。家族には優しく、思いやりがあり、家事はすべて夫人に任せているようでした。夕食後に控え目にジョークを飛ばす習慣があり、子供のように室内ゲームに興じました。

ある晩のこと、スープ、ラム、野菜サラダ、デザート、ワインの夕食をとってから、彼は巻煙草を丸め始めて、「お吸いになりますか」と私に差し出しました。遠慮すると、一人で吸い始めました。私が驚きを隠しているのに気付くと、彼は言いました。

「神に感謝できることになぜ驚く。私は煙草一本を吸えば神に感謝する。二本目も。しかし、三本目はない」

吸い終わると、末っ子のブディアがバイオリンを演奏してくれました。

きれいな調べに彼も心を奪われているようでしたが、「私は音楽を愛好するが音楽家の才能はない」とあとで言いました。

◉哲人ソクラテスとの共通点――直観力と良識を人生論の中心に置く

彼は外出によく誘ってくれましたが、思索に没頭して、私の存在さえ忘れるようなときがたびたびありました。

夢を見ているような恍惚とした（trance）状態に陥（おちい）ることもありました（横のテーブルには猫のマルチーズがいました）。それが数時間続くと、家族は邪魔にならぬよう細心の注意を払ったものです。

彼は、ときどき恍惚から覚めると、そこで得た真理を書きとめていました。

興味深いことに、新アメリカ百科事典のような権威ある書物には、ソクラテスが同じ経験をしていたと書かれています。

ソクラテスは従軍中に突然足が大地と結合するような感覚がして、丸一日恍惚状態に陥りました。そして、自分ばかりか大勢の人の人生を変える精神的知識に覚醒するのです。

アテネの哲人とトロワードの共通点は、人生論を構築するのに直観力と良識の二つに主に頼ったことです。

トロワードの教えは物質世界を否定しない点で、クリスチャン・サイエンスとは異なります。

逆に、物質世界にあるどんなものも、それぞれに対応する思考の結果なのだと教えるのです。

二つは補完する関係にあります。

「深遠な真理を人に伝えるにはどうすればよいか」とあるとき彼に尋ねました。

「**そのものになること。〝もつ〟ではなく〝なる〟が生きる喜びです。**それが私のモットーです」

◉解脱者トロワードの最期は、自ら望んだ通りの幕引きだった

トロワードは亡くなる日のほとんどを戸外でのスケッチに費やしました。夕食時になっても戻らないので、トロワード夫人が心配して探しに出ました。そして、アトリエで夫を見つけました。

きれいに服を着て、死んだようにソファーに横たわっています。

一時間後に彼は息を引き取りました。

「死因は脳内出血」と医師は診断しました。

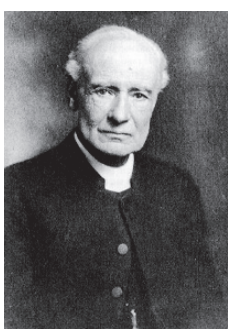
「私は有限から無限へ移るだけだ」とトロワードなら言ったに違いありません。

1916年3月16日、六十九歳で他界したその日、ウェストミンスター寺院でウィルバーフォース大執事[*3]が永眠しました。二人をつなぐ糸は尋常ではありません。

トロワードは国から国へ旅するのと同じように死を考えていました。

「あの世に関心がある、そこに行く準備はできている」と何度も私に語ったものです。

彼が唯一心を痛めたのは妻と子供たちが悲しむ姿です。

しかし、ついに時がきて、「そうなる」と自ら望んだ通りに、彼は逝去したのです。

訳注＊3　archdeacon Basil Wilberforce（1841－1916）。イギリス国教会の聖職者で作家。1896年にイギリス下院付牧師。1900年にウェストミンスター大聖堂大執事に就任。彼の著作は「無限との調和」（邦訳『人生の扉をひらく「万能の鍵」』吉田利子訳）の著者であるラルフ・ウォルドー・トラインに大きな思想的影響を与えた。1911年にウェストミンスター大聖堂にアブドル・バハを招く。